



杉並景観録

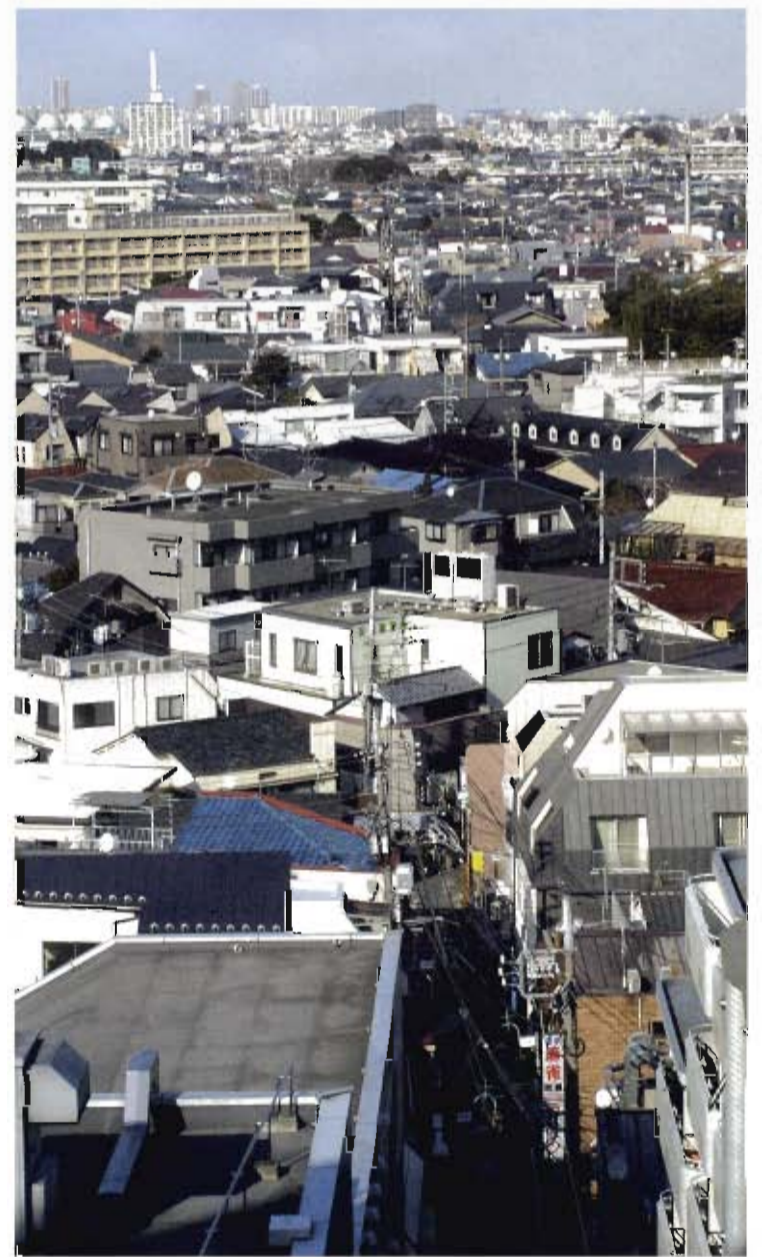
第十号

SUGINAMI Keikan-Roku

平成7年3月の創刊からはや10年、杉並のまちなみを様々な視点からご紹介してきた「杉並景観録」も今回で第10号という節目を迎えることになりました。今後も昔から変わらない原風景や時代と共に変わり行くまちの風景などあらゆる角度から「杉並の景観」について皆さまにお伝えしていきたいと思ひます。

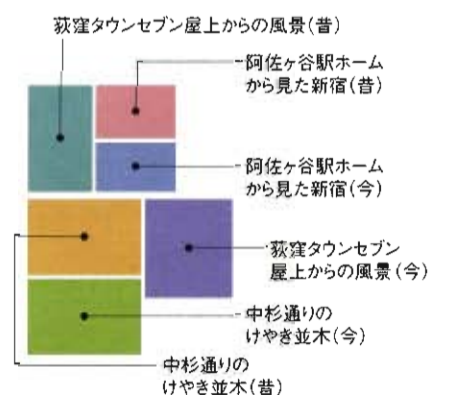


●発行日 17年3月22日
●発行 杉並区都市整備部まちづくり推進課
TEL.3312-2111(代)



景観法が 制定されました

平成16年12月17日、わが国で初めての景観法が施行されました。この法律は、各自治体が、良好な景観を形成するために計画をつくり、区域や地区を指定して、建築物の高さや色・デザインなどの規制や屋外広告物の規制のほか、地域の景観上重要な建造物や樹木の指定などでもできるようになっています。そして、「良好な景観」は、将来にわたり残していく「国民共通の資産」であるとも謳われています。杉並区でも平成17年度に、景観ガイドラインを策定する予定です。杉並区がみどり豊かな美しい住宅都市として更に発展できるよう、区民の皆さまと協力しながら景観づくりを進めていきたいと思ひます。



(昔)→区政施行60周年記念「杉並百景」1993年3月30日発行の検ハガキより

入口正面にある「七福神」の九谷焼のタイル絵。
金色に輝くタイルの縁取りが何とも豪華。



「錦鯉」が7匹。冬でも暖かさのせいか冬眠知らず。
一年中元気に泳ぐ姿を見ることができます。



玉の湯

開店祝いに建築会社から寄贈された「壁掛け時計」。今もなお時を刻んでいます。



創業昭和27年、瓦屋根は、阿佐ヶ谷の職人さんが一人で3ヶ月以上かけて据えたこだわりの作。瓦職人の間でも話題になったそうです。玉の湯の名は、玉の湯の前にそこに建っていた建物の大家さん「玉子さん」が由来。

Interview

杉並の銭湯について、杉並浴場組合広報担当「小杉湯」の平松さんにお聞きしました。

Q1 杉並区には現在何件の銭湯がありますか？（平成17年1月1日現在）

A 45軒あります。特にJR高円寺駅や阿佐ヶ谷駅の近くに集まっています。

Q2 1口の利用者数を教えてください。

A 東京都全体で1件あたり1日平均140人です。

Q3 どのような方が利用されますか？

A 若い方からお年寄りまで様々です。休日になると、親子連れやお子さんが友達同士で利用されたりもします。

また、区内では現在自家風呂率が98%にも上りますが、「足を伸ばしてゆっくりお湯につかりたい」とか、「お風呂の手入れが大変なので」などの理由で、利用されている方もいらっしゃいます。

Q4 お客様のためにどのようなサービスを行っていますか？

A 60歳以上の方が100円で入浴できる「高齢者ふれあい入浴」や大人一人に対し、二人までのお子様（未就学児）は無料になる「親子ふれあい入浴」の他、季節ごとに、「ゆず湯」「しょうぶ湯」「りんご湯」など毎月お客様が楽しめるようなサービスをご提供しています。

Q5 最後に、一言お願いします。

A 日々の疲れを「癒し」に、是非「銭湯」にお越しください。

今回ご紹介した銭湯は、ごく一部ですが、どのお店もご主人をはじめみなさんが精魂込めて守りつづけている様子を肌で感じ取ることができました。どっしりとした外観もさることながら、一歩足を踏み入れると、タイムスリップしたような懐かしさに心が和みました。「温故知新」、一度お近くの銭湯を訪ねてみてはいかがでしょうか。温泉とは違った新しい発見があるかもしれません。

●銭湯について詳しくは、杉並浴場組合公式ホームページ「せんとう.jp」<http://sentou.jp>まで



銭湯の定番「富士山」の背景画。都内の背景画師は3名のみ。

小杉湯



創業昭和8年、入口の重厚な唐破風屋根。欄間の材は今では貴重な屋久杉。夜にはライトアップされます。



冬の空の飛行機雲。この晩、雨が降りました。



空の風景

せわしない日々を送っていると、道を歩いていると、道に入るものは、建物やすれ違う人ばかり。街路樹や店先に飾られた花に心が和んだりするものです。ふと、足を止めて空を見上げてみましょう。雲ひとつない真っ青な空、どんよりとした灰色の空、オレンジ色の夕焼け。夏の人道雲や秋のいわし雲、飛行機雲。昼の太陽、夜の月や星。毎日違うその「顔」に季節のうつろいを感じ、物思いにふけてみたり。たまには、少しだけ時間をとめて、一息つくのもいいかもしれません。

すぎなみ／ひと／まちなみ

SPECIAL EDITION

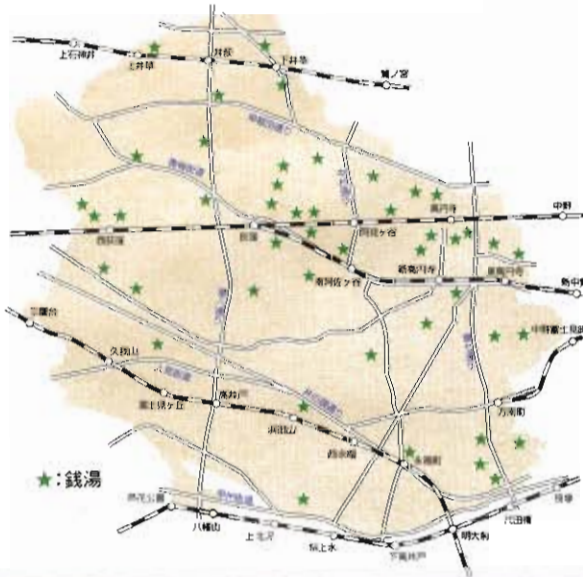


かつて内風呂がなかった頃、誰もが洗面器を小脇に抱え銭湯に通ったものでした。暖簾をくぐって、木の札の鍵がついた下駄箱に靴を入れ、番台に「あいさつ」。ざっくりと編んだ大きな竹の籠に服を入れ、洗い場へ。背中を流しあつたり、大きな湯船にみんなであつかり、銭湯はまさに、「まちの社交場」でした。

銭湯の歴史

入浴の始まりは「身を浄める」という神事の一つでした。銭湯が始めて登場したのは江戸時代。当初は、膝までしかない湯船につき、蒸気で蒸す蒸し風呂のようなものだったとか。今のようにお湯を使えるようになったのは、江戸時代から明治時代になつてからで、大きな湯船と高い天井、蒸気抜きの窓をつけ、採光も良くなるなど、現在の銭湯の原形ができあがりました。その後、近代化が進み、昭和になると最盛期を迎えますが、内風呂の普及と共にその数は減少しています。

しかし、現在、銭湯は昔の建



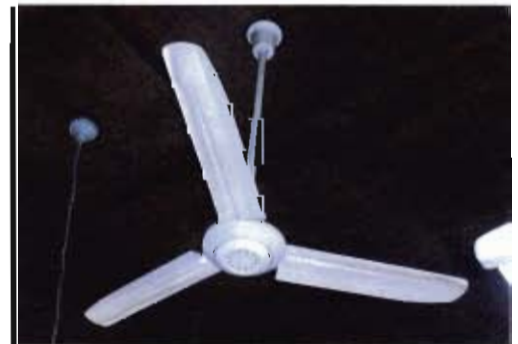
物を活かしたり、あるいは建物の形を変えて最新の設備を取り入れるなど、様々な工夫を凝らしながら、私たちのまちなみにお息づいています。

(参照：東京都浴場組合公式サイト)

杉並湯めぐり
懐かしさと温もり
そして、新しい発見



創業昭和31年、お店の中はほとんど創業当時のままとか。壁の補修や設備の修理などご主人自ら、手厚く大事にお手入れをしているそうです。天井のお掃除は、大仏様のすす払いのように笹のホウキを使用。



今では珍しい扇風機「通称；プロペラ」。4段変速で、万遍なく風を送り続けています。



背景画師がたったの半日で一気に書き上げる



「おしどりマーク」の木札の鍵がついた下駄箱。

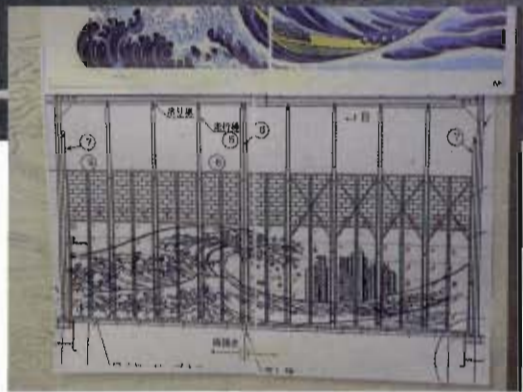


現在、環状七号線に面した梅里公園（梅里1-1-55）の敷地の一部で、神田川・環状七号線地下調整池梅里立坑到達工事が行われています。工事用車両の出入口のパネルには、東京都第三建設事務所の協力で、女子美術大学短期大学部デザインコースの皆さんが、立案から制作まで行った作品を目にすることができます。テーマは、「爽やかな風を!」。コンセプトは「環状七号線を通る熱い風、東京の元気が行き交う交差点。住んでいる人と通過する人の交わりあう地点。北斎の知恵を借りて、涼風を送り続けたい。住民の皆様にとって気持ちのよい空間をつくりたい。そのような、気持ちで制作しました。」。細かく切ったシートを一枚一枚丁寧に貼り合わせて作り上げた力作は工事が完了する平成18年1月頃まで展示される予定です。



環七に爽やかな風を送りたい

神田川・環状七号線地下調整池
梅里立坑到達工事に伴う工事パネルの装飾
女子美術大学短期大学部



設計図



制作風景

第9回杉並「まち」デザイン賞候補募集

今回のテーマは「素敵にがんばってる「まち」に拍手!!」

区内の「まち」で見つけたすてきな建物やまちなみなどをお知らせください。

皆さんの推薦をもとに選定し、表彰します。自薦・他薦を問いません。

【推薦対象】

- 現存する建物(住宅・店舗など)
- 工作物(看板・柵・ベンチ・植え込みなど)
- 地域活動(まちなみを魅力的に演出している団体など)

【推薦方法】

はがき、電話、FAX、メールで、まちづくり推進課まで下記の事項をお知らせください。

- ・推薦する建物などの所在地、住所
- ・あなたの住所、氏名、電話番号

【締切】

平成18年5月31日消印有効

【発表】

平成19年2月頃広報、リーフレットでお知らせします。

浜田山に柏の宮公園オープン

区立公園最大4.3ha

浜田山2-5-1

昨年10月、浜田山駅に程近い興銀グランド跡地に区立柏の宮公園が開園しました。公園づくりは、計画の段階から多くの区民の方々の参加により進められ、その結果、様々な利用が楽しめる草地広場、ビオトープを体験できる水生生物の池、昔からある雑木林や茶室、日本庭園などをいかした自然豊かな公園となりました。また、この周辺は三井上高井戸一帯避難場所となっており、災害時の避難場所としての役割も担っています。

今後も引き続き、区民の皆さんと区が協働で公園を育てていく予定です。



杉並の面影

今、昔の面影を残すまちなみが改めて見直され、まちの観光スポットとして、また、テーマパークなどとして再現され多くの人たちが訪れています。区内にも住宅都市として発展してきた面影を偲ぶことができる古い建物が残っています。区では、現在これらの建物を美しいまちなみを構成する「まちの財産」として守っていくための検討を進めています。